
CoCoa

王様の文庫本

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C o C o a

【Nコード】

N 8 3 9 7 A

【作者名】

王様の文庫本

【あらすじ】

いつもの日常とかなりちがう日常。いつのまにか変わっているかもしれない。

t e a s p o o n o (前書き)

NHK教育「天才てれびくんMAX」に出演中の橋本甜歌さんと、同番組の戦士OB 井出卓也さんを登場人物にしました。年齢などもまったく違うので、名前を変えてもよかったのですが・・・自分がイメージしたままにすることにしました。わからないかたでも楽しめると思います。

ドアを開けて中に入ったとき、何か違和感を覚えた。

鍵は合ったのだから自分の部屋に間違いはないのだが、どこか違うものを感じる。

一度部屋を出て扉を閉めた。表札には自分の字で「井出」と書かれている。確かに自分の部屋だ。もう一度中に入る。・・・やはり何か違う。

玄関を入ってすぐ右に旧式のガスコンロ、その左には水道、洗ったお皿、電子レンジ、オーブントースター、炊飯器、冷蔵庫、調味料が置かれた棚と続く。何も変わった所はない。今度は左に目を向ける。風呂場やトイレへの扉、洗濯機があり、洗濯機の前のかごには無造作に入れられた服が、寂しそうにうなだれていた。早く洗濯しないとな、などとへんぴなことを考えつつ、気のせいだと結論づけて奥の小さなリビングへとつながるガラス障子の引き戸を開いた。

部屋の中央に置いてあるこたつから何かが飛び出している。

こたつで女の子が寝ていた。

肩ぐらいありそうな茶髪が顔にかかっているためよく見えないが、だいたい年は二十歳前後だろうか、髪の間から見える肌や綺麗な手が若々しい。この部屋の住人井出卓也は、男というより男の子の方が近いような顔に大きく呆然と書いたまま、キッチンとリビングの狭間で立ち尽くしていた。

女の子はそんな卓也の前で、部屋を横に区切るかのように堂々と寝息をたてていた。

月めくりのカレンダーが、残り一枚となる季節。

ラスト二枚目をめくるとき、「今年ももうすぐ終わりか」なんてつぶやきそうになるかもしれない・・・人によって様々な思惑が飛び交う月である。

そして、小さな青年井出卓也がため息をついたのは、邪念がもっともあふれるころだった。

わかりやすく簡潔に言えば「クリスマス」という行事の一週間前である。

街にはそろそろとお散歩中の牛さんが通るかのように、ゆっくりとだが確実に赤・白・緑の三色ムードが漂い活気づいていた。

そんな迷惑な雰囲気が晩年より明らかにぎやかなのは、このところ降り続いている真っ白なロマンスの塊のおかげである。

ホワイトクリスマスなんて言ったりするが、働く皆さんにとっては賛否両論ある厄介者だろう、うん。

だが営業という仕事は、そんなことはお構いなしに舞い込んでくる。入社一年目の去年は辛かった。

今年ほどではないが雪が降り続き、ほっカイロが必需品であったことを昨日のように覚えている。

カイロをこすりながら横目で、すれ違うカップルたちに皮肉を言いたくなるのは、冴えない男の心情だ・・・と思いたい。

かわいいわが子に貯金をおろすサンタや、かわいい恋人にブランドのバッグをせがまれるサンタもぞくぞくと増え、冴えない男は惨めな男へと昇格する。

そんな中、たまに看板を持ってティッシュをくれるサンタを見るたび、自分のことのように思えてくるのはなぜなんだろうか・・・とにかく今はそんな、身にも心にも寒い季節である。

目の前の女の子は、「ぐう」と鼻を鳴らしながら寝ている。

どうにも平和そうで、ここが本当に自分の部屋なのか疑問に思うほどいびきが5畳間にこだまする。

後ろを振り返ると見慣れたキッチンが、かわりを持ちたくないと言つかの様に黙りこんでいた。

リビングに目を戻す。キッチンに続く引き戸の反対側にある壁、つまり卓也の正面にはベランダに通じるガラス戸があるが、今はカーテンが閉められていて見えない。

その左側の隅には、小さめの台に乗った15インチほどの今は懐かしきビデオデッキ付きのテレビが部屋を見渡すように置かれている。テレビの上には申し訳程度に、黒く質素な時計がPM11:00を指して居座っている。

またその左側を見ると、どこで買ってきたのか壁を覆いつくすほど大きいコルクボード

が掛けられており、昔の写真やメモ、カレンダーなどが貼つてある。下には、洗濯物が綺麗に折りたたまれて積まれている。卓也はここから服を取っているのもで棚はない。

反対側の壁を見ると、ハンガーが掛けられるようにでっぱりが取り付けられており、ハンガーには黒のスーツが一着、埃をかぶっている。

その下には、この部屋を支配するかのようにシングルベッドが鎮座している。

そして部屋の真ん中には、一年を通してこたつが置いてあり、その上には小さなかごが置かれていて、爪切りやはんこがごちゃごちゃと詰め込まれていた。

どれを見ても自分の部屋だ。

だんだんとこの部屋に血が通ったように活き活きと見えてきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8397a/>

CoCoa

2011年1月13日14時20分発行